

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和2年10月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～4）

28日に実施した現地調査では、昭和4年火口内のごく弱い噴気が認められました。現地調査で噴気が認められたのは2017年以来ですが、山頂に設置した監視カメラでは時折観測されています。前回（2019年5月）と比較して、火山活動に関連した地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

山頂に設置した監視カメラによる観測では、昭和4年火口、明治火口のごく弱い噴気が確認された日がありました。噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図5）

火山性地震は観測されず、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図6）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次の火山活動解説資料（令和2年11月分）は令和2年12月8日に発表する予定です。

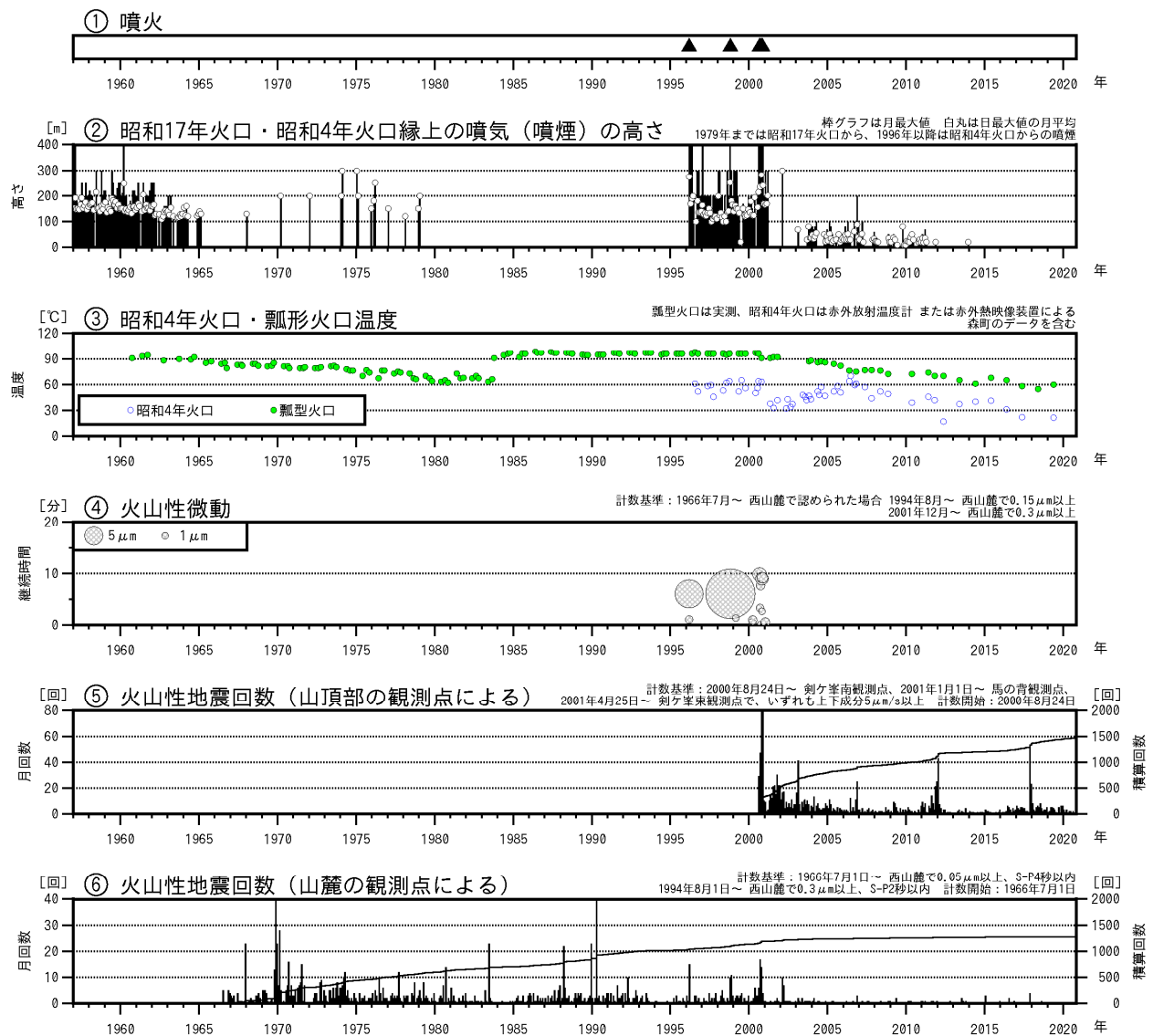


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2020年10月）



図2 北海道駒ヶ岳 西南西側から見た火口周辺の状況
（10月28日、剣ヶ峰監視カメラによる）

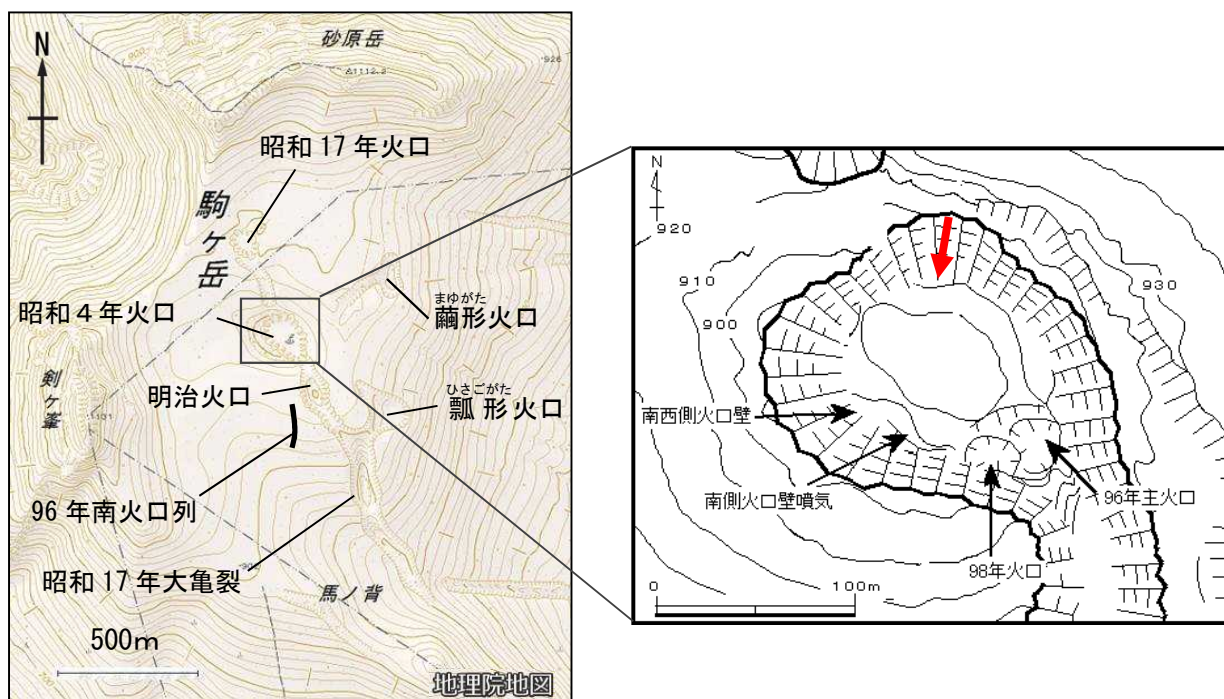


図3 北海道駒ヶ岳 赤外熱映像及び写真の撮影方向（赤矢印）

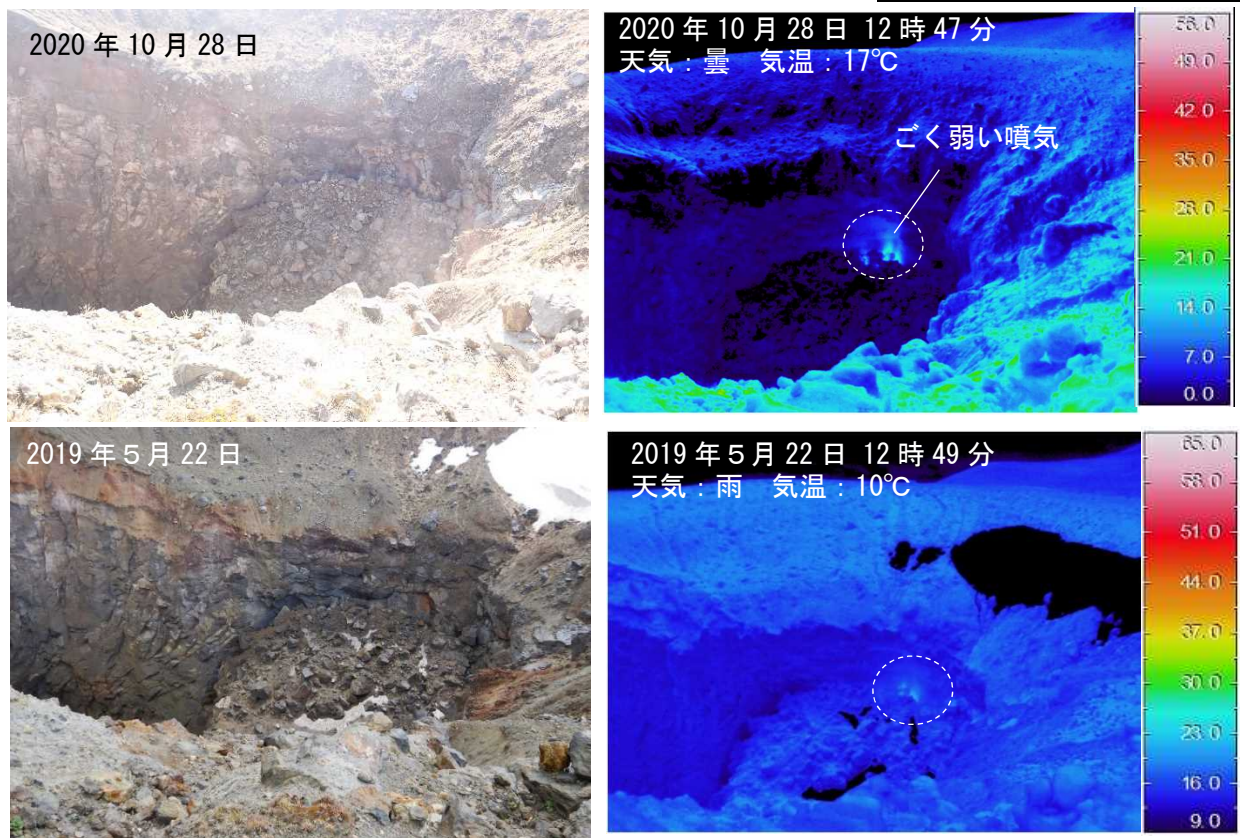


図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口内の地表面温度分布 北側（図3の赤矢印）から撮影
・昭和4年火口内でごく弱い噴気が認められました。現地調査で噴気が認められたのは2017年以來ですが、山頂に設置した監視カメラでは時折観測されています。前回（2019年5月）と比較して、火山活動に関連した地表面温度分布（白色破線部）に特段の変化は認められませんでした。

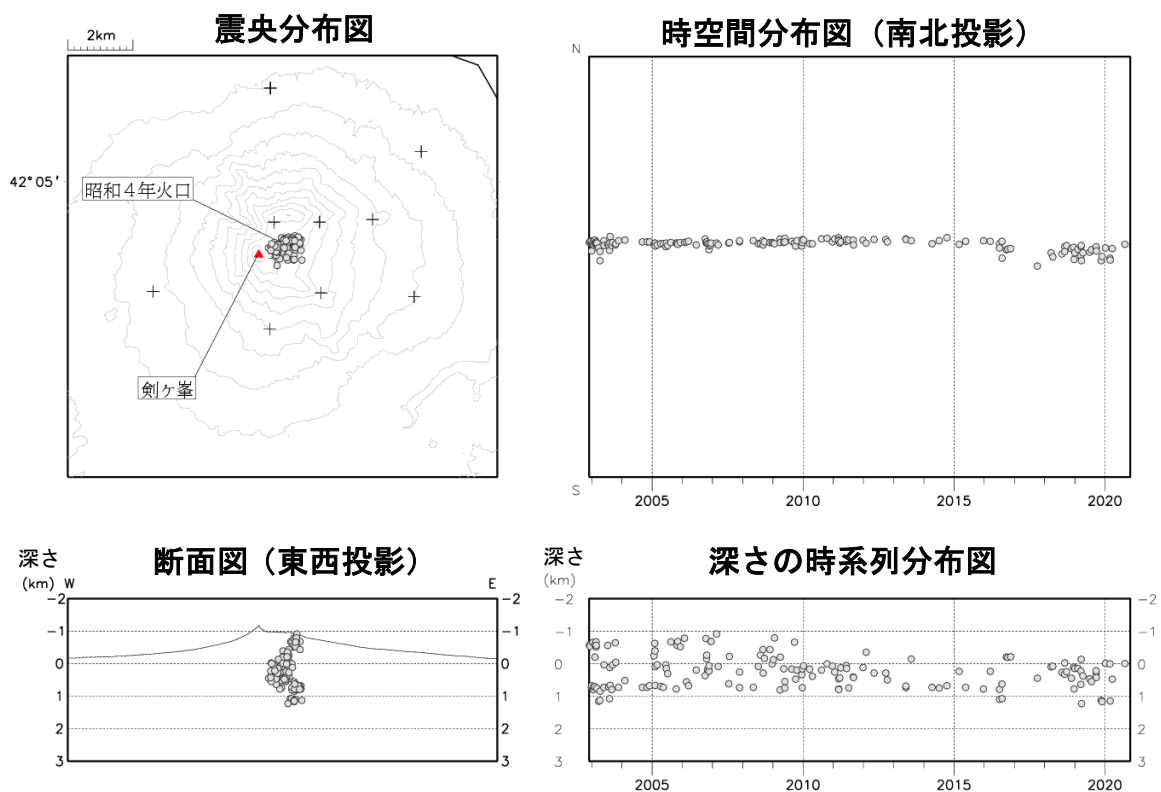


図5 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2020年10月）

●印：2002年12月～2020年8月の震源
＋印：地震観測点

・9月以降火山性地震は観測されていません。

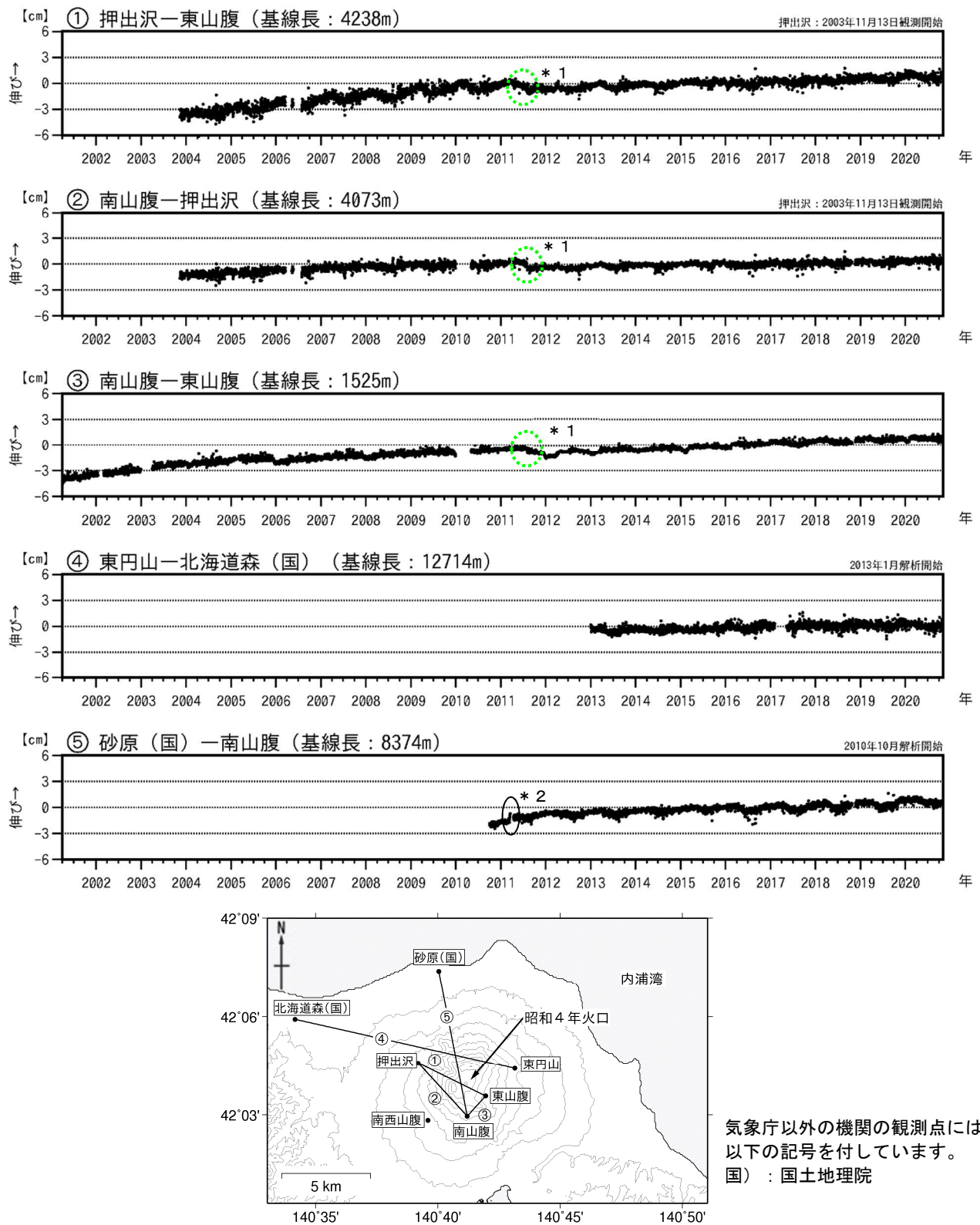


図6 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2020年10月）及び観測点配置図

GNSS基線①～⑤は観測点配置図の①～⑤に対応しています。

GNSS基線の空白部分は欠測を示します。

①～③の緑点線円内の変動（* 1）は、機器更新によるものです。

⑤の黒楕円内の変動（* 2）は、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものです。

2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています

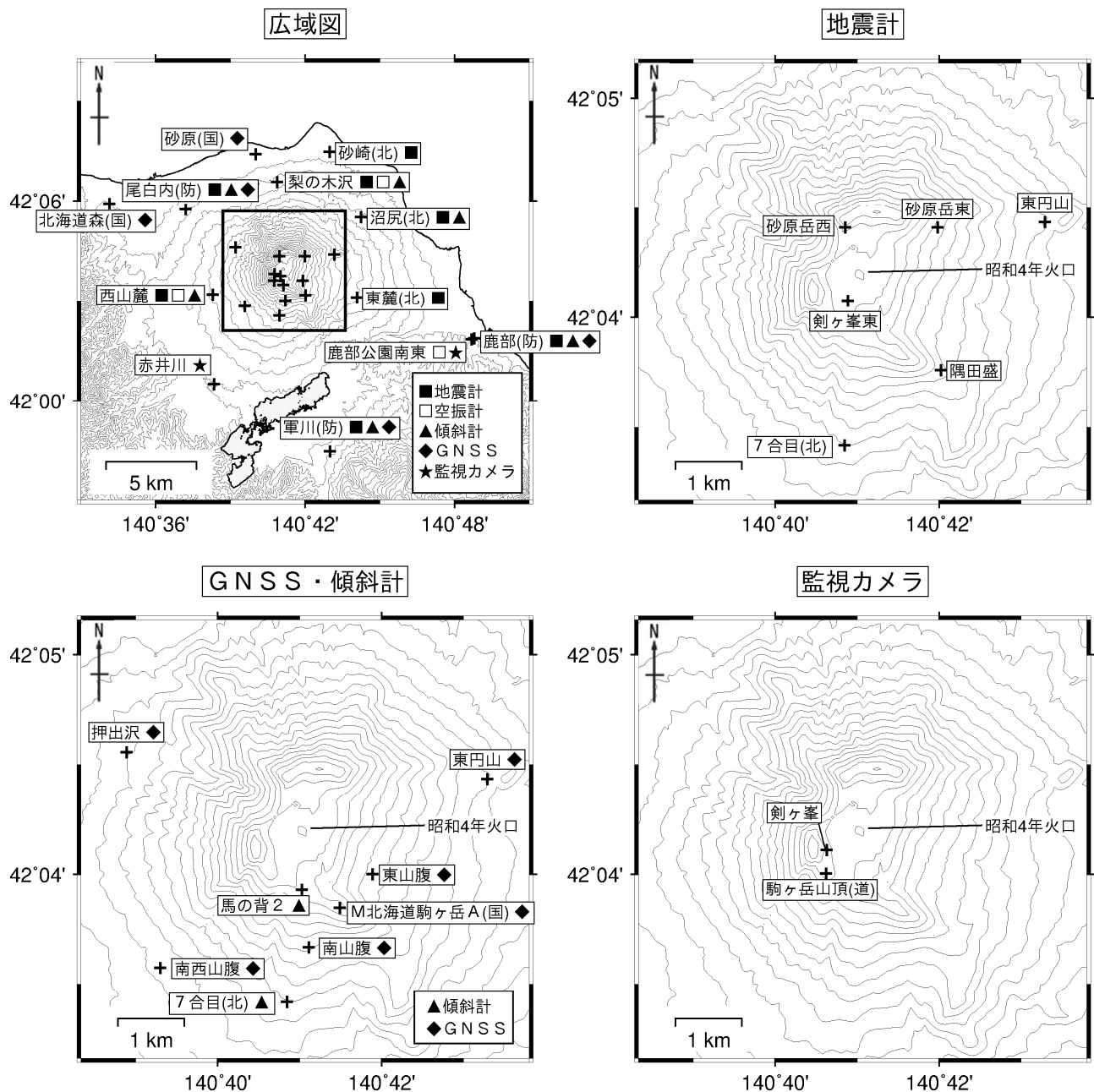


図7 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (国)：国土地理院
- (北)：北海道大学
- (防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道)：北海道